

防災学術連携体 関東大震災 100 年企画と 会員学協会へのお願い

■企画内容と趣旨：

1923 年に南関東直下で発生したマグニチュード 8 クラスの大地震は、いわゆる関東大震災を引き起こしました。南関東や周辺地域に地震による揺れや火災、津波などにより甚大な被害が発生し、当時およびその後の社会へも非常に大きな影響を及ぼしました。以降の構造物の耐震設計で参照される重要な地震でもあります。2023 年はこの関東大震災から 100 年目を迎えます。これを機に、関東大震災を振り返り、当時何が起こったのか、現在までにどのように社会は変わってきたのか、地震・地震工学はどのように発展してきたのか、またこれからの課題は何か、などを防災に関わる多様な分野の研究者・技術者間で情報共有し、議論することは意義深いと思われまます。

防災学術連携体では、関東大震災 100 年企画として、シンポジウムの開催と、会員学協会や学識関係者などからの寄稿により構成する冊子の発行を予定しています。このうちシンポジウムについては、2023 年 7 月 8 日（土）にハイブリッド方式で開催する計画としています。現在、防災学術連携体の幹事団を中心に、テーマを 4 つ設定して、テーマ毎に WG を立ち上げ、パネルディスカッション方式のシンポジウム開催を検討しています。今後企画がまとまり次第、防災学術連携体の会員学協会や学識会員の皆様、および一般の方々にお知らせする予定です。

各学協会からの冊子へのご寄稿のお願い

上記の企画の一つとして、防災学術連携体会員の学協会と学識会員の皆様からのご寄稿をまとめて冊子を発行します。

つきましては、1923 年関東大震災により生じたこと、その後の 100 年間における展開や変化、今後の課題などに関して、学協会からのご寄稿をお願いしたいと思います。原稿は添付のフォーマットに従い、各学協会でも A4 版 2 ページ分のご寄稿を作成していただき、2023 年 5 月 22 日（月）までに、下記送付先までお送りいただきますよう、お願いいたします。

印刷した冊子をシンポジウム当日までに会員学協会に配布したいと思います。

なお、学協会によっては、多くの分野の活動や提言がある場合などで A4 版 2 ページではまとめきれない場合もあると思います。このような場合には、学協会としての A4 版 2 ページの資料の他に、A4 版 10 ページ以内の追加資料を掲載可とします。追加資料については、本文と合わせて電子出版の形で公開する予定です。追加資料は、基本的には自由フォーマットとしますが、可能な範囲で添付の本文フォーマットに合わせてください。

・ご寄稿・資料の送付締切り：2023 年 5 月 22 日（月）12 時